

人文会ニュース

1988.12

人文書講座XVI

「子ども学関連事象」の「現在」

本田和子

1

大学生協連専門書復刊事業の到達点と今後の課題

全国大学生生活協同組合連合会

織田和一

12

第8回特約店・準特約店の選定を終えて

調査研修委員会

市川昭夫

17

棚の横にて……………磐田戸田書店

小田光雄

24

〈書評再録〉

『人文科学の現在』……………27

53

業務用

法政大学出版局

ヴォルテール 哲学辞典

高橋安光 沢村昌昭 悪罵や皮肉・ユートピアに溢る文章の天才と思想家の統一版の完成に

- 叢書・ユニベルシタス ——
- 煉獄の誕生 J.ル・ゴッフ
渡辺春根夫・内田洋訳……………5800円
- 自然の人間歴史 モスコヴィツシ
大津真作訳……………上3900円/下3500円
- 分子革命 F.ガタリ
杉村昌昭訳……………2800円
- 現代社会とストレス H.セリエ
杉・田多井・藤井・竹宮訳……………3800円
- 意識ある科学 E.モラン
村上光彦訳……………2900円
- ガリレオ研究 A.コイレ
菅谷 曉 訳……………4500円

東京都千代田区富士見2/電03-237-1731

応用心理学講座

全13巻

- ⑧ スポーツの心理学
末利博・鷹野健次・柏原健三編
一つの人間像からあるべき防災の姿を示唆。
理想的な集団、リーダー等を分析。
- ③ 自然災害の行動科学
安倍北夫・三隅二不二・岡部慶三編
具体的ケースを中心に事故予防のあり方をさぐる。
- ② 事故予防の行動科学
三隅二不二・丸山康則・正田亘編
事象のメカニズムを分析。
- ① 組織の行動科学
三隅二不二・山田雄一・南隆男編
組織人のかかえる諸問題を分析。

A 5判・各3800円/既刊4・以下続刊

東京・文京 小石川1-3 福村出版 電話(03) 813-3981

ワイトゲンシュタイン

カヴァイス全詩集

むずかしい時期の子供たち

数理哲学・科学史の哲学

エイヤー「論理哲学論考」から「言語ゲーム」まで、20世紀の知的巨人を現代の巨匠が読み解く。信原幸弘訳 2000円

現代ギリシア最大の詩人の全詩集。鮮やかな言語で照らし出すアレキサンドリアの荒地の宇宙。中井久夫訳 2000円

「頭が悪い」と診断された子供達がその才能を発見し自信をもつまでを教師がレポート。小川真一訳 2000円

「科学史の哲学」「無限論の形成と構造」他、科学の精神史を確立した著者の初期の著作4篇を収録。(第2回) 要500円

東京文京本郷
3丁目17-15

みすず書房

なぜ日本人は働きすぎるのか

猪瀬直樹十信州大学客員講師団

労働時間はなぜ短縮できないのか。世界一長いといわれ、国際的な批判を浴びる日本人の労働を、ユニークな経歴をもつ社会人講師たちが徹底的に解剖し、未来への方策を探る。

日本人の仕事

日本人の人生案内

日本人の戦争

●定価1,400円

●定価4,200円

●定価4,200円

●定価4,200円

平凡社 千102 東京都千代田区三番町5
振替・東京8-29639 03-265-0455

「子ども学関連事象」の「現在」

本田 和子

「子ども」をめぐる論争は、一時の盛りを過ぎて、幾分沈静のきざしを示し始めたかに見える。新聞やテレビ・ラジオで、子ども種子が連日のように派手派手しく扱われたあの頃は、考えてみれば、一種の集団ヒステリーにも似て、おぞましい季節であったのだと思う。だから、鎮静化の動きは、それなりに好ましい。

しかし、「子ども」あるいは「子ども研究」に関する書物群の動向は、必ずしもマス・コミの「子ども現象」とパラレルではない。全く無縁とは言えぬまでも、すき間もなく重なり合うわけではないのである。子どもに関

する言説や関連書物群が、先の「子ども現象」に便乗したり、あるいは逆に煽動されたりという、相互交渉を認めないではないが、その以前から、「子ども学関連事象」はある新しいうねりを示し始めていたのだし、その波は、現在も、多様なうねりを見せながら、知の世界を、そして書物の世界を洗っている。したがって、書物群を中心に「子ども学関連事象」の「現在^{いま}」を語ろうとするこの試み、「現在」というタイトルに背くことを知りながらも、タイムスパンを長く取って、過去の歩みを辿り直すことから始めたい。

* * *

「子ども」あるいは「子ども期」というカテゴリー概念が、近代社会の申し子であってみれば、子ども研究も、子どもをめぐる現代までの諸言説も、いきおい、近代主義と不可分に結びついて展開されている。十九世紀末頃から盛んになる「児童研究」が、ひたすら自然科学的客観主義を志向し、実証主義に身を委ねたのはその典型例と言えよう。子どもは観察や実験の素材として対象化され、実証可能な側面だけが網の目に掬いとられる。ビデオ機器や環境制御装置やらと、観察や測定の便宜をはかる機械器具の発達は、子どもの言動を細分化し、研究は、よりミクロに、より精緻に、その精度を誇ろうとする。子ども研究の主流が、小児科学と児童心理学で占められたのは、この所以であった。この二つの分野だけが、こうした「近代科学的児童研究」の特性をにない得たからである。

ところで、一人一人の生身なまみの子どもと、家庭や学校で直接的な関係を持たねばならぬ現場人たち、すなわち両親や教師たちが、こうした「児童研究」と直ちに結び付

いたわけではない。彼らの現場、すなわち、「育て・しつけ・教授する」というその一瞬一瞬は、極めて経験主義的で、かつ精神主義的な「子育ての習慣」に支配されていた。もちろん、「子ども」と「大人」が、「育て・しつけ・教授する」、すなわち「保護と教育」という関係でしか結び付き得なくなったのは、「近代主義」の所産である。したがって、「子育ての習慣」なるものも、広く把えるなら近代社会の産物と言わねばなるまい。しかし、いわゆる「近代科学的児童研究」と直結していないという意味で、経験主義的な習慣と呼んでおきたいのだ。今世紀の半ばまで、わが国の家庭や学校では、大人たちはある安定した「育児」や「教育」の「しかた」を身につけ、格別に惑うこともなかったであろう。

たとえば、婦人雑誌に掲載された「育児記事」は、今世紀の半ば頃までは、「離乳食の作り方」や「汗もの治療法」など、身体的ケアに関するハウ・ツウものか、母親の心がけを説いたものが主流であった。因みに、一九三〇年前後の斯欄には、「お子さんをよくするにはここが急所」とか、「愛児を優等生にする母の心得」などの記事が散見されるが、多くの場合、これらは名士夫人や、

子育てを終えた母親たちの経験談であった。

婦人雑誌の類に、近代主義が志向した「科学的児童研究」がドッキングされ、いわゆる「心理学的育児評論」が目立ち始めるのは、どうやら一九五〇年前後のように見える。とりわけ、「知能テスト」を有力な武器として、斯界で啓蒙的活動を展開する心理学者たちが登場するものが、この時期であった。大戦後の自由教育の興隆とともに、「わが子の個性」への着目が始まり、それに便乗して「個性の科学的弁別」を謳う「知能テスト」が浮上してくる。「客観的理解」なる用語が育児記事中に跳梁し、その理解を助ける道具として「テスト」に格別の意義が与えられたのだ。

この動きは、学校教育の現場に関しても、同様である。「教授法」や「プログラム研究」は、大戦前から、一部の熱心な教師たちの関心を引いてはいたが、現場人たちがほぼ一斉に教育心理学書を手にし、学校現場と心理学の密着が訪れるのは、やはり、一九五〇年以降であろう。「パーソナリティ研究」「情緒障害」、あるいは「発達遅滞」など、心理学的タームが教育界の常套語と化するのに何ほどの時間もかからなかった。

このことは、「社会適応」という概念が、教育目標の中に大きく浮上してきたことと無縁ではない。「適応性」は、子どもの成長にとって、不可欠の能力とみなされ、教育現場のキー・ワードともなる。そして、これは、過度に心理主義的なアメリカ教育界のキー・ワードでもあった。世界中で、最も多く科学的研究の対象とされたのは、疑いもなくアメリカ合衆国の子どもたちであろうし、その彼らを対象とした科学的研究が、他国の子どもたちにも大きな影響を与えていくのが今世紀の動きと言い得る。わが国の場合も例外ではないのだが、とりわけ、それが顕著となって、「育児評論」や「教育現場の指導的言説」までが、どつぷりと心理主義に浸されるのが、一九五〇年以降であった。

「適応性」の重視は、当然のことながら「不適応」という概念を浮上させる。これらは当然のことながら、「不適応」を改善し「適応性」を高めるべく、臨床心理学や精神医学の登場を要請する。テレビや新聞に、子ども種子が扱われるとき、現在、これらの専門家たちの見解が必ずといってよいほどに紙面を賑わすのは、この所以であった。

* * *

さて、「子ども学の現在」を語るのに、いささかならず廻り道をしてしまった。このあたりで、時間をいま少し現在に引き寄せて、一九八〇年前後の動きに目を向けよう。この頃に、「子ども学」の周辺に、地殻変動のきざしが見えるからである。Ph・アリエスの『八子供の誕生』の邦訳、そして、この一書の知の世界での迎えられ方は、その動きを象徴する出来事と見ることが出来るよう。

アリエスの労作は、さかのぼること二〇年も前に、既に世に出ていた。英訳されてアメリカ合衆国で迎えられたのが一九七〇年である。わが国の場合も、一握りではあるが先見的な教育学者・教育史学者たちの中で、この業績に注目する動きがあった。しかし、邦訳紹介の企てが実現し、一般の目に触れるまでには、どうやら二〇年の歳月が必要であつたらしい。先に述べたように、「子ども」および「子ども研究」の言説は、久しく、近代主義で固められていた。したがって、「近代の問い直し」を基調におくアリエスの言説は、容易にその場所を獲得

し難かったのであろう。そして、四〇〇ページにおよぶこの大著が、その全貌を店頭に現わしたとき、それが「子ども学」の世界ではなく、むしろ、知の世界一般で迎えられたのも、こうしたありようと無縁ではない。「子ども学」は、依然、近代主義に棹さして動いていたのだが、一方で、「子ども」が、知の世界の主題たり得る条件が整い始めていたのである。

このことは、大別、二つの震源から辿ってみることが出来る。一つは、いうまでもなく、パラダイムの転換。世界システムの構造変化によって、認識と実践の装置としての学問は、当然のことながらそのあり方を問い直される。生活様式と生活意識の変化が、学問の社会的な位置に移動を生じさせるとともに、その理論的枠組に変更を促すだろう。いわゆる「学問の存在証明」の問い返し、「制度的枠組の解体」……。その結果、「非中心化」の動きが活発化してくる。

「学問」という制度的カテゴリーから知性を解放し、「知一般」というより広やかな地平へと拡散させた非中心化の動きは、「知の世界」に、周縁に置かれて顧られることもなかったマイナーなものを、次々と浮上さ

せていった。近代主義によって貶められてきたあれこれ、たとえば、合理に対する非合理、西欧に対する土着、理性的なものに対する幻想的なものなど、支配文化に対するサブカルチャーに、次々と光が当てられ始めたのだ。こうした知の変動の中で、「子ども」という「異人」の表象が、構造的に、あるいは象徴論的に、新しい意味を付託されて浮かび上がってきたのは当然と言えば当然のことであらう。

改めてふり返る視界に、一九六〇年代の終わりから、一九七〇年代にかけて、時代が「子どものもの」との間にある默契を交わし合い、やがて、それが、次第に公共性を獲得して時代の表層に位置を占めていく経緯が、

鮮やかに描き出されてくる。「子どものもの」という表現が誤解を招くとするなら、「子ども」の表象によって象徴されるあらゆる「異端性・周縁性」とでもいうべきだろうか。たとえば、コミュニケーションの中心にせり出してきて活字文化を凌駕し始めた、映像・音楽・パフォーマンス……。あるいは、存在の根源として復権させられた「身体性」など。これらは、必ずしも「子ども」にのみ固有の属性ではないが、優れて「子どものもの」を特徴づける「しるし」、すなわち、記号論的に見るなら「子ども」と同型ということになる。

そして、より端的な例が、「ファンタジー」や「絵本」など、従来は「子どもの本」と範疇化され、大人たちの

世界の子ども文化

岩田慶治編 台湾の山地民
アフリカの農耕民、トルコ
の遊牧民等、多様な民族の
子供達の姿を追う。1500円

子どもと生きる

河合隼雄編 医学・心理学
教育学・人類学など様々な
分野の第一線で活躍する専
門家が子どもの在り方をあ
らためて捉え直す。1300円

ボディ・ワークのすすめ

グラバア俊子 近年注目さ
れつつある体と心の関係を
具体的なワークと体験学習
を通して示唆する。1300円

アンデルセン 童話の深層

森 省二 代表的作品八篇
について、ユング的アプロ
ーチを中心に柔軟な分析を
展開する話題の本。1300円

日本児童文学学会奨励賞受賞

まど・みちお 詩と童謡

谷 悦子 1600円

創元社

大阪市北区西天満1-4-2
東京都新宿区山吹町334-11

視野に入りこみ得なかったもののたちの浮上である。セン
ダックやエンデの作品、あるいは昔話たちが、先端的な
知性に支えられて知の世界に流通し始めたのだ。旧来の
人間科学を脱構築すべく、現代の有力な分野として、
「深層心理学」と「文化人類学」、それに加えて「子ども
学」が挙げられたのも、この動きと連動する。いうまで
もなく、ここで指摘された「子ども学」とは、科学的子
ども研究を超克した「脱近代的」なそれであった。

脱近代的子ども研究、それが、正統的・中心的孩子も
研究の中から容易に見出し得ないことは自明である。そ
れら「制度的な子ども学」は、そもそもから近代主義の
申し子であったし、骨の髄まで「近代」に浸りきってい
たのだから。近代を問い直したアリエスの子ども研究が
浮上してきたのはこの所以で、彼は、その出自からして
「子ども学」とは無縁であった。自身で言明するように、
アリエスは、子どもや家族、あるいは妊娠や出産の歴史
を探り直して見せはするが、格別に、「それらの専門家」
ではない。「子ども・家庭」、あるいは「誕生と死」など、
従来の歴史研究や文化研究から、除外され無視されてい
たものを主題化することは、人間の心性、時代と文化の

深層を掘り起こすべく、もっともふさわしい試みに他な
らない。そのゆえに、いま、それらが主題化されるのだ。
それらのありようこそが、自然と文化の関係と、その関
係の変化を、何よりもよく照らし返すのだから。アリエ
スが辿ってみせた「子ども発見」の歴史が、単なる「子
ども」の歴史であることを超えて、近代社会がもたらし
た認識の布置の変化をあらわにしたと、M・フーコーら
に匹敵するものと評価されたのも、この所以であった。

そして、いま一つ、日常性のレベルにおいて、現実に
子どもによって示される様々な挑発性に、震源が見出さ
れる。一九八〇年頃から、「子どもがわからない」「子ど
もが変わってきた」などの表現で、その逸脱性が焦点化
され、一種の危機意識とともにその対策が論議されてい
る。冒頭で触れたマス・コミの「子ども現象」など、そ
の最もジャーナリスティックな現われに他ならない。

しかし、「逸脱性」とは、子どもを規定している従来
の枠組の破綻であらうし、彼らとの間に取り結んで来た
「大人」子ども関係が、大幅な変改を余儀なくされて
いる証であらう。伝統的な生活規範の大半が意味を失い、
日常的習俗も加速度的に解体されている時代を、私ども

はいま生きようとしている。日々、新しい「もの」や「こと」の対応に追われる生活の中で、「子ども」は、しばしば「大人」を凌駕する。従来のような「大人⇨子ども」の権力関係が失速し、いつの間にか横一列に並ばされてしまっているのは確かと言えよう。にもかかわらず、子どもはその関係の変化を明確に把握し得ていない。「逸脱性」という認識自体が、未だ、既成の關係に依拠していることを物語るのではないか。

知の世界で「子ども」が主題化され、「子ども」に注がれる「まなざしのありよう」が問題とされたのは、ここにも原因の一端がある。そして、「子ども期」の発見を「まなざしの変化」と把えたアリエスの見解が、熱い注目の対象とされたのもこの所以であった。

* * *

「子ども」および「子ども研究」をめぐる言説に、変化がきざし始めた一九八〇年前後を、私どもは、いま、ふり返っている。「子ども学」を支える地殻の変動、それは先ず、いわゆる「子ども学」の外側で起こったのだ。そして、その動きをリードしたのは、その大半が「非子

ども学者たち」、つまり、制度的な意味での「児童研究の専門家」ではなかった。

しかし、このことは、すべての人が「子どもの語り手」であるという、自明の真理が現実化された結果であろう。制度的な「児童研究」が懸命に樹立を試みた方法論と理論装置は、その特権性を失ない、多様な接近が模索されねばならぬと、時代は警鐘を鳴らし始めたのであった。

時には従来の方法論が批判的に継承され、時には他領域の方法論が試験的に採用され、極限の形としては方法論的アナキズムさえも自覚的に追求されねばならぬ。「子ども体験」を内在させた一人一人の身体、それをいま、子ども学的身体と仮称するとして、それら一人一人の身体によって生きられる「子ども関係」の中に「子ども学」は浮上してくる。したがって、その現われは、相応にアカデミックである場合もあれば、多分にアマチュアライクであることもあろう。私どもは、いま、そうした多種多様な「子ども学」の表現に対して、とりあえずは非権力的な関係を取り結ぶことこそを課題とせねばならない。否定し合い、圧殺し合うのではなく……。

制度的な「児童研究」の罫いの中でも、ゆるやかなが

ら変化は生じている。マイナーながら、その試みを継続しつつある「現象学的子ども研究・授業研究」、あるいは「社会史・心性史を射程に入れた子ども史・教育史の研究」、「人類学・民俗学的知見の導入」……。そして「子ども」に対する「見えの枠組」を更改すべく、子どもの実体視を超えて、「子ども」というカテゴリーそのものが検討の対象とされ始めてもいる。

「近代主義」は、未だ確固たる支配力を、「子ども」および「子ども研究」の上に及ぼし続けているから、一般的に見て、制度的児童研究の王座は、依然として安泰であると言い得る。しかし、私どもはいま、その地盤を僅かずつ脅かし始めている地殻変動、あちこちに噴出する新しい動きに対して、鈍くあることは許されまいと思う。そのためには、私どもをこれまで強く呪縛しきっている「大人Ⅱ子ども関係」、すなわち、「子ども」を保護と教育の対象と捉え、大人は子どもを保護し教育すべきだとする心性から、先ずは解放されることが肝要であろう。そして、「子ども研究」が、すべて、この「保護と教育」に役立たねばならないとする、実利性と効用性からも自由になるべきではないか。「保護と教育」という関係以

外のすべてを陰蔽しつくしたものの、それこそが「大人Ⅱ子ども関係」の上に近代主義がもたらした、「負の側面」に他ならないからである。

「子ども学」関連文献

——地殻変動に敏くあるために

◆子ども・子ども論

- 『子供！』スタジオ・アヌー編、晶文社
- 『子ども』向坊隆他、東京大学出版会
- 『新しい子ども学』（1-3）小林登他、海鳴社
- 『同時代子ども研究』（全6巻）波多野誼余夫他、新曜社
- 『子ども体験』村瀬学、大和書房
- 『初期心的現象の世界』村瀬学、大和書房
- 『理解のおくれの本質』村瀬学、大和書房
- 『方法としての子ども』小浜逸郎、大和書房
- 『子どもたちの現在』斉藤次郎、風媒社
- 『子どもを見直す』斉藤次郎、中央公論社
- 『子どもの文化人類学』原ひろ子、晶文社
- 『異文化としての子ども』本田和子、紀伊國屋書店
- 『子どもの領野から』本田和子、人文書院
- 『子どもはもういない』N・ポストマン、新樹社
- 『子どもは小さな哲学者』G・B・マシューズ、思索社
- 『子どもとの会話』R・D・レイン、海鳴社

『追いつめられた子どもたち』C・ロシュフォール、人文書院
『ベルリンの幼年時代』W・ベンヤミン、晶文社
『発見』E・イヨネスコ、新潮社

『子どもと生きる』河合隼雄編、創元社

『あなたが子どもだったころ』河合隼雄対談集、光村図書

『自分の中の子ども』谷川俊太郎対談集、青土社

『対談』谷川俊太郎対談集、すばる書房

『挑発する子どもたち』山口昌男他、駸々堂

『こども』佐野洋子、リブポート

『こばを失った若者たち』桜井哲夫、講談社現代新書

『子どもの犯罪と死』山崎哲・芹沢俊介、春秋社

◆ 時間軸に添って

『八子供』の誕生』Ph・アリエス、みず書房

『日本子どもの歴史』(全8巻) 石川松太郎他、第一法規

『世界子どもの歴史』(全12巻) 斎藤正二他、第一法規

『子どもの時代』森田伸子、新曜社

『社会史のなかの子ども』宮澤康人編、新曜社

『忘れられた子どもたち』L・A・ポロク、勁草書房

『八若者』の社会史』J・R・ギリス、新曜社

『子供たちの大正時代』古島敏雄、平凡社

『江戸のわかもの考』野口武彦、三省堂

『日本の子どもたち』宮本常一著作集、未來社

『子ども風土記・小さきものの声』定本柳田國男集、筑摩書房

『子育ての書』(Ⅰ～Ⅲ) 山住正己他、平凡社東洋文庫
『産育と教育の社会史』(全5巻) 同編集委員会、新評論
『落穂ひろい』瀬田貞二、福音館

◆ 空間という視点

『子どものあそび環境』仙田満、筑摩書房

『子どもの場所』草森伸一、晶文社

『子どもと都市』総合研究開発機構、学陽書房

『都市の遊び場』アレン卿夫人、鹿島出版会

『新しい遊び場』A・ペンソン、鹿島出版会

『ベニヤの学校』河内紀、晶文社

『身体宇宙誌』磯崎新他、岩波書店

『人間と空間』O・F・ボルノウ、せりか書房

◆ 心の世界をのぞく

『子どもの深層』秋山さと子、海鳴社

『母と子の深層』秋山さと子、青土社

『子ども時代の内的世界』F・G・ウィックス、海鳴社

『子どもの精神分析』M・マノーニ、人文書院

『永遠の少年』M・L・フォン・フランツ、紀伊國屋書店

『おとぎ話における悪』M・L・フォン・フランツ、人文書院

『おとぎ話における影』M・L・フォン・フランツ、人文書院

『昔話の深層』河合隼雄、福音館

『昔話と日本人の心』河合隼雄、岩波書店

『魂の殺人』A・ミラー、新曜社

『魂の殺害者』M・シャッツマン、草思社

『昔話の魔力』B・ベッテルハイム、評論社

『子どもの世界をどう見るか』津守真、日本放送出版協会

『子どもの中の精神的発達』H・ワロン、人文書院

『子どもの中の思考の起源』(全3巻) H・ワロン、明治図書

『発生の認識論序説』(全3巻) J・ピアジェ、三省堂

『知能の誕生』J・ピアジェ、ミネルヴァ書房

『思考の心理学』J・ピアジェ、みすず書房

『情緒発達の精神分析理論』D・W・ウィニコット、岩崎学術出版

『幼児期と社会』(I・II) E・H・エリクソン、みすず書房

『玩具と理性』E・H・エリクソン、みすず書房

『ごっこからファンタジーへ』内田伸子、新曜社

『子どもとことば』岡本夏木、岩波書店

『ことばの前のことば』やまだようこ、新曜社

『イメージの誕生』中沢和子、日本放送出版協会

◆ 家族・母性

『対幻想』吉本隆明・芹沢俊介、春秋社

『家族の政治学』R・D・レイン、みすず書房

『家族複合』J・ラカン、哲学書房

『母親・父親・掟』佐々木孝次、せりか書房

『近代家族の形成』E・ショーター、昭和堂

『妻と夫の社会史』M・セガレーヌ、新評論

『母と子の民俗史』F・ルークス、新評論

『プラス・ラブ』E・パダンテール、サンリオ

『母性を問う』(上・下) 協田晴子編、人文書院

『妹の力他』定本柳田國男集、筑摩書房

『女の靈力と家の神』宮田登、人文書院

『グレート・マザー』E・ノイマン、人文書院

『女性の深層』E・ノイマン、紀伊國屋書店

『母系社会日本の病理』河合隼雄、中央公論社

『子別れのフオークロア』本田和子、勁草書房

『ママハハ物語』宮迫千鶴、思潮社

『高群逸枝論』山下悦子、河出書房新社

『ジェンダー』I・イリイチ、岩波書店

◆ 思想としての「子ども」、文化としての「育児・教育」

『翁童論』鎌田東二、新曜社

『神から翁へ』山折哲雄、青土社

『童子考』郡司正勝、白水社

『的と胞衣』横井清、平凡社

『ハーメルンの笛吹き男』阿部謹也、平凡社

『トボスの知』中村雄二郎、筑摩書房

『道化の宇宙』山口昌男、白水社

『日本近代文学の起源』柄谷行人、講談社

『都市空間のなかの文学』前田愛、筑摩書房

『精神史的考察』藤田省三、平凡社
 『民話の思想』佐竹昭広、平凡社
 『酒吞童子異聞』佐竹昭広、平凡社
 『さんせう太夫考』岩崎武夫、平凡社
 『説話の宇宙』小松和彦、人文書院
 『神々の精神史』小松和彦、北斗出版
 『源氏物語』を江戸から読む』野口武彦、講談社
 『わたしたちの「江戸」』本田和子他、新曜社
 『日本の異端文学』松田修、講談社
 『異人論序説』赤坂憲雄、砂子屋書房
 『迷子論』堀切直人、村松書館
 『野ウサギの走り』中沢新一、思潮社
 『手の宇宙誌』堀内守、黎明書房
 『脱学校の社会』I・イリイチ、白水社
 『排除の現象学』赤坂憲雄、洋泉社
 『学校の現象学のために』小浜逸郎、大和書房
 『授業』吉田章宏編、朝倉書店
 『いじめⅡ／＼学級Ⅴの人間学』菅野盾樹、新曜社
 『学ぶ様式』山本哲士、新曜社
 『教育としての遊び』W・ベンヤミン、晶文社
 『遊び』J・アンリオ、白水社
 『育てるものの目』津守房江、婦人の友社
 『アグネス論争を読む』JICC出版局
 『マカ不思議國探検隊』宮里和則他、いかだ社

『忍者街を走る』宮里和則他、いかだ社
 『ミュンヘンの小学生』子安美知子、中央公論社
 『シュタイナー芸術としての教育』上松祐一他、小学館
 『走れナフタリン少年』川本三郎、北宋社
 『感覚の変容』川本三郎、文藝春秋
 『同時代を生きる「気分」』川本三郎、冬樹社
 『少女論』本田和子他、青弓社
 『超少女へ』宮迫千鶴、北宋社
 『花吹く乙女たちのキンピラゴボウ』（前後）橋本治、北宋社
 『熱血シュークリーム』橋本治、北宋社
 『子どもの本の現在』清水真砂子、大和書房
 『子どもという主題』本田和子、大和書房
 『「家なき子」の旅』佐藤幸子、平凡社
 『昔ばなしとは何か』小澤俊夫、大和書房
 『魔法昔話の起源』V・プロップ、せりか書房

本田和子（ほんだ・ますこ）
 新潟県高田市生まれ。父の転任と共に各地に転居。現在は
 お茶の水女子大学教授。専攻児童文学。主著『異文化としての
 の子ども』（紀伊國屋書店）『子どもの領野から』（人文書
 院）『少女浮遊』（青土社）『子どもという主題』（大和書房）
 『子別れのフォークロア』（勁草書房）など。

大学生協連専門書復刊事業の 到達点と今後の課題

全国大学生生活協同組合連合会書籍部

織田 和一

はじめに

大学生協連の「専門書復刊事業」とは、現在皆切になっている書目を、生協組合員が予約をすることで、復刊させるものである。それが今年で第六期を終えた。これまでに、参加された版元数は四〇社、候補本は八一二点、復刊された書目は四九一点に達した。学問研究のために予約をして頂いた生協組合員、この事業に賛同され積極的に出品された版元各社、復刊にあたり新たに内容を検

討された著者の先生方、また、事業として成立させるため、各生協理事会の方針を具体化して奮闘した生協職員、陰で支えて下さった関係各位に、最初にお礼と感謝を述べておきたい。

品切となる理由には、主に、版元で採算のとれないもの、著者の意向によるもの、内容が古くなったものなどが挙げられるが、この事業で採り上げる書目は大体において、版元で採算がとれない書目が多い。Ⅰ期とⅡ期は

「事業」と呼ぶより、「活動」「運動」という面が強かった。Ⅲ期目に、京大生協が一〇〇人を超える予約者を募るなど、各店舗でも取り組みがすすみ、事業展望が拓け、Ⅵ期までつづいている。今では、大学生協書籍事業として、なくてはならないものに成長した。

いま、第Ⅵ期を終え、事業として成立期を迎えた時、これまでの到達点、組合員の要望、今後の課題を整理することは、この事業が、引き続き日本の学術・文化の発展に寄与してゆくうえで、また組合員が、大学図書館・研究室が、必要な時に、必要な本を、必要な冊数供給できるといふ状態をつくるうえでも重要であると考えらるである。

(1) 専門書復刊事業の歴史

大学生協連が「専門書復刊事業」に取り組んだ直接の動機は、一九八三年、未来社のPR誌『未来』六月号に、西谷能雄未来社社長（現会長）が、「版元で現在、品切になっている専門書の重版を、大学生協の組織事業力と結びつけながら、予約という形で実現できないものか」という提言を受けたことによる。それまでに、東大生協

の院生委員会では、品切本の重版の方法について検討したり、いくつかの版元が、重版の判断として各生協書籍部に、注文部数を聞いてみるなどがあったが、大学生協の組織力を活かす点までには至っていなかった。その意味で、西谷氏の提言は画期的であり、大学生協連として論議し、版元各社にも相談して、運動として実現してゆくこととしたのである。

つまり、「専門書復刊事業」の主旨を、次の三点にまとめた。

- ① 大学生協が組合員の生活（勉学・研究生活）から出る関心・要求を生活者運動として、主体的に「専門書復刊事業」として実現してゆく。
 - ② 専門書重版を出版社と生協の協力共同による行為により活性化させる。
 - ③ 出版文化・出版事業における大学生協の書籍事業を社会化する。
- 復刊へのすすめ方は、次のようにした。
- ① 参加版元・生協で「専門書復刊事業委員会」を設置する。ここで対象商品、復刊の決定をする。
 - ② 「復刊アンケート事前予約カタログ」をつくり、組

表① 復刊事業の年度別推移

	'83	'84	'85	'86	'87	'88
共同復刊：	10	28	24	29	25	23
版元独自復刊：	16	50	48	72	72	94
復刊計：	26	78	72	101	97	117
参加版元：	3	10	17	21	21	31
候補本点数：	59	131	140	154	143	185
申込葉書枚数：	700	900	1300	1557	1408	1617

合員から予約を募る。

③ 予約数が二〇〇部を超えた場合は復刊する（共同復刊）。二〇〇部に満たない場合は、版元で復刊するか、しないかを判断する。

④ 復刊する部数は五〇〇部とし、定価はそれに見合う価格とする。

I期は、初めての試みであること、取り組みの期間が短いこともあり、「これまでつき合いの多い」岩波書店、東京大学出版会、未来社の三社に協力をして頂いた。三社からは計五九点の候補本が出品され、一九八三年一月から十二月にかけて予約活動を行い、翌

八四年三月に組合員の手に渡るようにした。七〇〇人を超える組合員から予約申込があったが、予約の結果は、一番多いもので約一六〇部で、二〇〇部に達したものはなかった。このため比較的予約の多かったもの、今後売れると判断できる書目は、各店舗で買切ることにし、一〇点の共同復刊と二六点の版元独自復刊、計二六点の復刊を実現した。

以上が、動機、主旨、スタート期の状況である。

(2) 店舗での取り組み

「専門書復刊事業」の事業展望が拓けたのは、第三期目からである。この時、共同復刊の基準をそれまでの二〇〇部から一〇〇部へと、候補本予約期間も六月へと変更した。これは、二〇〇部まで予約数が達しないため、一〇〇部で共同復刊をしてゆくのが現実的であること、六月に予約を採ることは、新学期の教科書供給の先生へのお礼の活動と合せられると、判断したからである。部数の変更では参加版元は、生協の買い取り分が半減するため、苦慮されたことと思うが、復刊された書目が、確実に売れていること、中には品切のものも出るなど、こ

の事業全体の広がりを理解して頂いた。

この二つの条件の変更と相まって、各店舗でもようやく活動スタイルが身につき始めていったのである。スタート当初から、大学生協連では、最高決議機関の全国総会にも位置づけ、各生協理事会でも討議をし、各店舗でも店長を先頭に奮闘していたのが、五年目にして開花したと言える。それは、新しい客層の開拓であった。候補本予約期の利用者構成比は、大体において、教員層二〇%、大学職員〇・一%、院生・研究生三〇%、学生二〇%、図書館・研究室二〇%である。これまでの生協書籍部は、諸条件の制約で学生主体の品揃えが中心であり、供給高に占める割合も圧倒的に学生の利用であった。それが、この事業では、教員、院生・研究者が六割前後を占めているのである。部数を多く普及するには、学生の利用を多くする必要があるが、専門書復刊事業では、教員、院生・研究生の中での利用を上げながら、学生の利用へとつなげてゆくという、ある意味では、今後の大学生協書籍部の供給方法を暗示していることが特徴としてあげられる。

具体例を紹介すると、京大生協は、Ⅲ期一〇〇人、以

後、二〇〇人を前後する予約を獲得している。方法は、徹底した研究室訪問、客注カウンターでの案内、学生への宣伝物の大量配布である。毎日、訪問する研究室を決め、訪問すれば、予約を採ることはもちろんだが、この事業への意見、要望を集約してきた。対話することは、たとえ予約が採れなくても、復刊希望書目が聞け、生協全体の活動が説明でき、大学との信頼関係を強めることができる。こういう店舗が増えている。

これらの活動の結果として、四〇社から四九一点の品切本が、八〇〇人以上の予約者の力で復刊されたのである。

(3) 専門書復刊事業の今後の課題

専門書復刊事業は、もとより出版文化に携わる人々の協力なしには成立しない。その中で、今後一層大切にするのは、組合員の要望である。「買いたい」「読みたい」という自らの願いを、候補本を予約するという形で、この事業に参加する組合員の「想い」と「行動」を大切にしたい。それは「予約をする」ひとりひとりの行為があって、それが一〇〇集まる以外、今のところ、品切本は陽

の目を見ないからである。

組合員の要望は、より具体的である。収集している要望は、大体、六つに類系化できる。①価格について、もう少し何とか安くならないかという要求。②理工系版元およびその書目を充実して欲しい。理工系でも名著が品切っているという声。③具体的な版元・書目を挙げる例。④一度復刊はされたが、すぐ品切になるので再復刊して欲しいという要望。⑤候補本となった書目は、復刊できるまで予約を募って欲しいという希望。⑥卒業後も利用したいという願い。どれも、本・読書に対する情熱がこめられている。

今後大学生協連は、これらの要望を、この事業の仕組の変更、改善が伴うものと、個別版元各社に協力を願うことに分けて検討して行きたい。

ところで、

- ① 大学の勉強・教育・研究活動を支え、大学コミュニティの充実に貢献する。

- ② 協同の心をはぐくみ、協同の力で生活文化の向上をはかる。

- ③ 生活と社会を結び、協同の輪を広げる。

以上は、八六年に、大学生協連が、全国総会で採択した、「新しい協同をめざして——変化の時代における大学生協の役割」の中身である。この方針で大学生協全体は活動し、書籍事業においても、個々の事業をすすめてゆくが、わけても、専門書復刊事業ほど、この方針に沿うものはない。

読者、著者、版元、生協が「協同の心」で、品切本を蘇らせてゆく。今はまだ、本当に小さな力でしかないと思うが、毎年、新しい要望と出会い、新しい利用者を見つけ、参加版元、出品点数を増やし、和書に限らず洋書も取り扱い、あるいは、版權を取得する、部数も大幅に買取るという、大きな課題をⅦ期以降実現したいものである。

第八回 特約店・準特約店の選定を終えて

調査研修委員会 市川 昭 夫（法政大学出版局）

定基準は前回と変更はなく次の基準によっております。

① 特約店について

① 会員二十一社中十三社以上と常備契約されていること。

② 会員社の人文図書を、一〇〇冊以上展示されていること。

③ 会員社の人文図書を年間三、三〇〇冊以上販売されていること。

④ 準特約店について

① 会員社二十一社中一〇社以上と常備契約されている

ご周知のように人文会は本年創立二〇周年を迎えました。創立趣旨であります人文書の普及販売は昭和四九年から実施しています、特約店・準特約店制度（五一年度実施）によって一層の前進をみたことはいうまでもありません。ご協力、ご理解を願いました特約店様・準特約店様に改めてお礼申し上げます。

さて、特約店・準特約店の選定は二年に一度会員社の最新一年間の「人文書常備冊数」「人文書売上冊数」「常備社数」を基礎データに選定させていただいております。

本年は選定年に当り六三年九月実施しました。なお選

ること。

◎ 会員社の人文図書を七七〇冊以上展示するか、または年間二、二〇〇冊以上販売されていること。

今回の調査結果から選定させていただきました特約店・準特約店数と推移は表①のとおりです。店数は前回とはほぼ同数の結果となりましたが特約店・準特約店が山梨・佐賀県に続き滋賀県からも選定からもれてしまったこと、また東京・横浜・大阪等の大都市での変動が他地域と比較して目立ちました。

変動の要因ともなります新規出店はピークがすぎたといわれますがまだ活発に続くなかで、変動が少なかつたことは書店・取次店・会員社がそれぞれのレベルでより効率を指向し判断された結果ともいえないでしょうか。

表① 特約店・準特約店の推移

年度	特約店	準特約店
49	188	
51	190	72
53	197	80
55	220	98
57	161	75
59	165	88
61	138	140
63	139	140

売上冊数は約五%の伸長となり、年換算いたしますと二・五%で、これは人文書・法経書を含んだ専門書の平均的伸長にほぼ近い数字でありました。

ご参考に表②に人文書売上状況を掲載いたしました。誌面の都合で一部分となりましたことをご容赦下さい。

人文会では特約店様・準特約店様に限定し、次の情報提供を行っております。ご販売の有効なツールとしてご利用下さり、更にご意見・ご感想をお寄せ願えば大変有難く存じます。(各会員社の新刊案内や販売資料との併用を是非お願いいたします。)

。人文会ニュース(年約四回)

。ワンポイント情報(毎月)

。新刊月報(毎月)

二〇年を経過した現在、今更申し上げるまでもなくその成果と反省に立脚した会活動をはかりながら、人文書販売により良い環境づくりを一層推進し具体化することが重要と考えています。

特約店様・準特約店様はじめ取次店様には一層のご支援、ご協力をお願い申し上げる次第です。

表② 人文会特約店年間人文書売上ベスト50店

63/9

順位	地 区	書 店 名	枚 数
1	新宿	紀伊國屋書店本店	105,688
2	大阪	紀伊國屋書店梅田店	75,762
3	中央	八重洲ブックセンター	59,776
4	大阪	旭屋書店本店	59,387
5	千代田	三省堂書店本店	54,392
6	豊島	BCリプロ池袋店	41,659
7	京都	駿々堂京宝店	38,174
8	文京	東大本郷生協	29,510
9	豊島	芳林堂書店池袋店	26,686
10	名古屋	丸善名古屋支店	26,129
11	中央	丸善本店	24,225
12	千代田	東京堂本店	21,305
13	渋谷	大盛堂書店	21,159
14	横浜	有隣堂東口ルミネ店	20,871
15	福岡	紀伊國屋書店福岡店	20,823
16	千代田	書泉グランデ	20,463
17	京都	アバンティBC	18,627
18	横浜	有隣堂西口店	18,600
19	八王子	中大生協多摩	18,169
20	新宿	早大本校生協	16,590
21	横浜	有隣堂伊勢佐木店	16,312
22	神戸	ジュンク堂サンバル店	15,953
23	渋谷	紀伊國屋書店渋谷店	15,731
24	広島	紀伊國屋書店広島店	14,986
25	名古屋	三省堂書店名古屋店	14,888
26	神戸	ジュンク堂センター街店	14,271
27	武蔵野	弘栄堂書店吉祥寺店	13,845
28	渋谷	旭屋書店渋谷店	13,682
29	仙台	東北大生協	13,514
30	新宿	芳林堂書店高田馬場店	13,382
31	横浜	ジョイナス栄松堂	13,102
32	豊島	旭屋書店池袋店	12,998
33	大阪	旭屋書店ナンバ店	12,440
34	京都	立命館大生協	12,388
35	高松	宮脇書店	11,948
36	大阪	旭屋書店アベノ店	11,720
37	名古屋	ちくさ正文館	11,620
38	大阪	ユーゴー書店	11,378
39	札幌	旭屋書店札幌店	11,319
40	新宿	三省堂書店西口店	10,827
41	千代田	明大本校生協	10,332
42	港	慶応大三田生協	10,303
43	京都	京大生協	10,096
44	渋谷	国学院大生協	10,067
45	前橋	煥乎堂	10,056
46	京都	丸善京都支店	9,960
47	札幌	紀伊國屋書店札幌店	9,889
48	静岡	谷島屋	9,698
49	札幌	北大学生書房クラーク店	9,369
50	金沢	うつのみや片町店	8,844

人文会△特約店▽一覧表(※印は準特約店)(順不同)

札幌 旭屋書店札幌店 紀伊國屋書店札幌店 パルコ

ブックセンター富貴堂 北海道大学学生書房ク

ラーク店 リーブルなにわ 丸善札幌支店

函館 ※森文化堂 ※ブックセンターリプロ函館店

旭川 ※ブックス平和本店 ※三省堂書店旭川店

青森 成田本店

弘前 紀伊國屋書店弘前店 弘前大学生協 ※今泉本

秋田 盛岡 仙台

※加賀谷書店本店 ※三浦書店

東山堂書店 ※東山堂ブックセンター ※第一

書店 ※さわや書店

山形 八文字屋 ※山形大学生協

仙台 丸善仙台支店 金港堂ブックセンター 東北大

学生協川内店 八重洲書房 ※アイエ書店 ※

金港堂 ※宝文堂書店 ※東北学院大学生協

福島	岩瀬書店コルニエツタヤ店	柏	スカイプラザ浅野 新星堂柏店
郡山	東北書店	松戸	※堀江良文堂書店
水戸	ツルヤブックセンター 川又書店駅前店 ※茨城大学生協	市川	※弘栄堂書店市川店
つくば	大学会館書籍部 ※第一学群書籍部 ※友朋堂書店 ※ブックセンターリプロ筑波店	横浜	有隣堂伊勢佐木店 有隣堂西口店 有隣堂東口ルミネ店 ジョイナス栄松堂 ※有隣堂戸塚店
宇都宮	※新星堂宇都宮店 ※アムスブックセンター	川崎	※慶応大学生協日吉店 ※そごうブックセンター
前橋	※新星堂高崎店		※神奈川大学生協 ※横浜市立大学生協 ※関東学院大学購買部
高崎	※ナカムラヤ		※ブックセンター文教堂 ※有隣堂BE店 ※江崎書店向ヶ丘店 ※ブックセンターリプロ川崎店
浦和	須原屋 ※須原屋コルソ店 ※埼玉大学生協	藤沢	有隣堂藤沢店 ブックセンターリプロ藤沢店
大宮	新栄堂大宮店 ※押田謙文堂 ※三省堂ブックポート大宮店 ※大宮ブックセンター押田	平塚	※東海大学協助会
所沢	※芳林堂書店所沢店 ※バルコブックセンター新所沢店 ※早稲田大学生協所沢店	横須賀	※平坂書房ウォーク店
蕨	※須原屋蕨店	小田原	伊勢治書店
千葉	ブラザ多田屋 千葉大学生協 ※キディランド千葉店 ※改造社パルコ店	厚木	有隣堂厚木店
船橋	旭屋書店船橋店 ブックセンターリプロ船橋店 ※芳林堂書店津田沼店	東京	
		〔千代田〕	三省堂書店本店 東京堂本店 書泉グランデ 岩波ブックサービスセンター 旭屋書店水道橋店 明治大学生協本校店 法政大学生協市橋店

〔中 央〕

ヶ谷店 上智大学購買部 ※丸善お茶の水店
八重洲ブックセンター 丸善本店 旭屋書店
銀座店 近藤書店

〔港〕

慶応大学生協三田店

〔浜 谷〕

旭屋書店浜谷店 大盛堂書店 紀伊國屋書店
浜谷店 青山学院大学購買部 三省堂書店浜
谷店 国学院大学生協 ※紀伊國屋書店笹塚
店

〔文 京〕

東京大学生協本郷店

〔台 東〕

※明正堂中通店 ※ブックセンターリプロ浅
草店

〔品 川〕

※ブックセンターリプロ大森店

〔目 黒〕

※東京大学生協駒場店 ※都立大学生協 ※
八雲堂 ※恭文堂書店

〔世田谷〕

※キリン堂書店バル店

〔新 宿〕

紀伊國屋書店本店 三省堂書店新宿西口店
早稲田大学コーププラザ店 芳林堂書店高田
馬場店 ※西武新宿ブックセンター ※早稲
田大学生協文学部店
※明屋書店

〔中 野〕

〔杉 並〕

明治大学生協和泉店 ブックセラーズ西荻
書原杉並店 ※ブックセンター荻窪

〔豊 島〕

旭屋書店池袋店 芳林堂書店 ブックセンター
リプロ池袋店 ※三省堂書店バルコ店 ※新
栄堂書店 ※新栄堂アルパ店

〔江 東〕

※新栄堂亀戸駅ビル店

〔墨 田〕

※ブックセンターリプロ錦糸町店

〔武蔵野〕

バルコブックセンター吉祥寺店 弘栄堂書店吉
祥寺店 ※紀伊國屋書店吉祥寺店

〔三 鷹〕

※第九書房

〔立 川〕

オリオン書房ウィル店

〔国分寺〕

※三成堂国分寺店

〔国 立〕

増田書店 ※東西書店 ※一橋大学生協国立店
中央大学生協多摩 くまざわ書店本店

〔八王子〕

有隣堂町田店 ※久美堂小田急店 ※久美堂本
店

〔町 田〕

※法政大学生協多摩店

〔静 岡〕

谷島屋 吉見書店 江崎書店 ※静岡大学生協
沼津 マルサン書店宝塚店

〔浜 松〕

谷島屋

〔清 水〕

※戸田書店

名古屋

〔東〕 ※正文館書店

〔千種〕 ちくさ正文館 名古屋大学生協南部店 ウニタ

※池下三洋堂

〔昭和〕 三洋堂書店本店

〔中〕 丸善名古屋支店 ※丸善ブックメイッ

〔中村〕 三省堂書店名古屋店 近鉄星野書店

豊橋 精文館書店 ※新曙書房

刈谷 ※三洋堂書店刈谷店

知多 ※日本福祉大学生協

岐阜 自由書房 大衆書房 ※岐阜大学生協中央店

津 ※別所書店11ビル店 ※三重大学生協

四日市 文化センター白揚

新潟 紀伊國屋書店新潟店 萬松堂書店 ※北光社

※新潟大学生協

富山 清明堂書店 ※富山大学生協

高岡 ※文苑堂書店

金沢 うつのみや片町店 書林香林坊本店 金沢大学

生協 ※福音館書店

福井 勝木書店 ※品川書店

長野 平安堂長野店 ※長谷川書店

松本 ※遠兵 ※信州大学生協松本店

大阪

〔北〕 旭屋書店本店 紀伊國屋書店梅田店

〔南〕 旭屋書店なんば店 ※ナンバブックセンター

〔住吉〕 大阪市立大学生協

〔東住吉〕 ユーゴー書店

〔都島〕 旭屋書店アベノ店

東大阪 ヒバリヤ本社 ※栗林書房

吹田 関西大学生協

高槻 ※コーベックス高槻店

豊中 ※大阪大学生協豊中店

京都

〔中京〕 寝々堂京宝店 丸善京都支店 ※京都書院ヴァー

ジョンB店

〔下京〕 ※ジュンク堂書店京都店

〔左京〕 京都大学生協 ※ナカニシヤ書店 ※葵書房

〔北〕 立命館大学生協

〔上京〕 同志社大学生協今出川店

〔南〕 アバンティブックセンター

〔伏見〕 ※龍谷大学生協深草店

田辺 ※同志社大学生協田辺店

神戸

〔中央〕 ジュンク堂センター街店 ジュンク堂サンパル

店 コーベブックス 海文堂

灘 ※ユーカー南天荘 ※神戸大学生協

姫路 誠心堂書店

西宮 関西学院大学生協

尼崎 ※ブックセンターリプロ塚新店

奈良 南都書林

和歌山 宮井平安堂

鳥取 ※富士書店

米子 ※今井書店

松江 ※千鳥書房 ※大学前園山書店 ※今井書店

岡山 紀伊國屋書店岡山店 丸善岡山支店 ※細謹舎

※弘栄堂書店岡山店 ※岡山大学共済会

広島 紀伊國屋書店広島店 広島大学生協 丸善広島

支店 ※平和書房 ※金正堂書店 ※溝本積善

館

山口 ※文栄堂 ※大学前文栄堂

高松 宮脇書店

徳島 ※小山助学館東口店 ※森住丸善

松山 紀伊國屋書店松山店 丸三書店 明屋大街道店

高知 金高堂書店 ※高知大学生協

福岡 紀伊國屋書店福岡店 りーぶる天神 九州大学

生協（法文系店）

北九州 金栄堂 ナガリ書店 ※旭屋書店北九州店 ※

井筒屋ブックセンター

久留米 ※エマックスたがみ

長崎 好文堂

熊本 紀伊國屋書店熊本店 ※まるぶん ※三章文庫

※熊本大学生協

大分 ※本町晃屋堂 ※パルコブックセンター大分店

※明屋大分店

宮崎 ※中央・田中書店

鹿児島 ※坂口金海堂 ※鹿児島大学生協 ※春苑堂

※春苑堂ブックプラザ

那覇 球陽堂書房 ※琉球大学生協

棚の横にて

磐田戸田書店 小田 光雄

客 君はちょうど独立して三年半位になるんじゃないか。どうだね、書店の経営者としての三年半は。

主 いやいや本当に苦しかったの一言に尽きる。それも現在進行中だしね。

客 そうかい、でも君は前の店でも店長としての経験も長かったし、プロとして自他共に認めていたし、自信を持っていたじゃないか。

主 そうなんだ。俺も自分の店を持つからには今までなかったような店を作りたかったし、従来の店は本当に商品構成、商品管理というものを根底的に追求したことがなかったんじゃないのかと思ってたし、俺が初めてやってみせるという意気込みで始

めた訳だよ。店舗の設計、売場の棚作り、開店商品の構成から始まって、近隣の書店と完全に差異化出来るという所まで出店計画を練って、さらにその上に直販の雑誌、書籍まで手配し、おまけに自分がコピーライターとなって、広告をうち、様々なフェアを展開して来た。地元タウン誌には毎月書評を寄稿し、宣伝を掲載し、書評コーナーも常設し、人文社会の新作についてはほとんど揃うという仕入れ努力をずっと続けて来たんだ。

客 それでどうだったんだ。

主 まあ三年半の地点で言えば、あまり芳しくないと言えないな。採算はギリギリだしな。特に今言ったような重点をおい

ている人文社会の書籍の売上げはやはり総合書店の売上げ比率の一〇％を仲々越えることが出来ないということに求められると思う。それからこの分野にあまり力を入れるということは経営的側面から言えば、あまり利口なやり方ではないんじゃないかと思ってる。経営者としてのそういった甘さが在庫の圧縮をためらわさせ、結局は資金繰りをまずくさせ、借金で何とかのりきっているのが正直な所さ。開店時の人文社会の売上げが現在でやっと一・五倍にはなったがどうもこの位が限界ではないのかとこの頃は思っている。

客 まあそう卑下するなよ。店の商品構成見たって、これだけの在庫とこれだけの商

品を揃えてる店はめったにないぜ。それも硬軟とりまぜてな。

主 それは判っている。某出版社の営業マンに言わせれば日本一の郊外店なんてことになるし、お客もこの店に来れば勉強になるし、いい本屋だとは言われているんだが、このやり方を他人にやれなんてのはとても言えない。

客 でもある程度は売れてるんだろう。でなきゃいくらなんでもこんなには置けないだろう。

主 そう、ある程度は売れるんだ。本当に信じられない気もするんだ。こういう例を出すスノビッシュで余り好きではないんだが、ドウルーズ・ガタリの『アンチ・オイディプス』が出た時なんか、一カ月で一〇冊売れて、一体誰が買っているんだろうと思つたよ。大体君も知っているように、俺はこの地元人間だし、地域の特性も判っているし、フランスの現代思想なんか読む人がいるのかなと思つていたからね。それにそもそも店の土地は父が妻とか芋を作っ

ていた場所だったしね。だから俺もびっくりしてしまつて、げにポストモダンに恐ろしきものよてな訳でさらに商品構成をエスカレートさせてしまつたんだ。だから、お客がついていないという事はない訳なんだ。ただやはり地域の読者の層の厚みとか商圏の人口の内容に制約されざるを得ないということがこの所実感としてようやく判つてきたよ。最初は半径三〇キロの商圏を想定して仕入れた来たが、それはちよつと不可能じゃないかとこの所思っているよ。まあこの問題は一言で言えない位あるし、本格的にはやはりこの何年かの読者論を別個書きたいとは思っているんだが。それともうひとつの大きな問題つてのは、何も他人のせいにする訳ではないが、書店が出来過ぎだね。まあこちらも出店している方だから大きな事は言えないが。

客 そういえばこの地方も君の店が出来てから何店も出来たね。改装なんか含めれば七、八店はあるね。それもコンビニエンスなんかは除いてもんな。

主 そうなんだ。俺はこの乱立状態を大抵ギルド社会から市場解放へという事で常々言つてるんだが、完全にオーバー・フロアだよ。確かここ四年位で一五万坪は増床している筈だよ。俺がこの業界に入った十数年前は三万坪ないしは四万坪が全国の書店坪数だと言われていたんだから、まあ恐るべき増え方だといつていいだろう。それに以前に比べると一店当りの坪数は大きいしね。

客 それはまた凄いい数字だね。ただ素人の俺なんかが考えてもそんなに増えてやつていけるのかい。他の職種と比べて価格競争が出来る訳じゃないし、だって読者そのものがそんなに増えている訳じゃないんだから。君以外の店を見たつてコンビニエンスストアの延長のような店ばかりだよ。雑誌、コミック、文庫それにビデオレンタルといったものばかりだね。

主 そういった店も採算から行くと確かにやつて行けるように思えないよ。でも長時間営業だし、人件費はパートで低コスト

に押さえ込んでゐるし、やはり一定の金額は売れているんだろう。それにきみが雑誌、コミック、文庫といったけど、ここが重要なんだ。俺の店もそうだけど大体売上の半分はこの三つで占められているから、この分野が競合すると本当に苦しいんだ。だから近くに出版されると本当に影響が出るってことさ。

客 何だか悲観的な話ばかりだな。じゃあ君はこれからの書店業界はどうなってる

くと思ってるんだ。

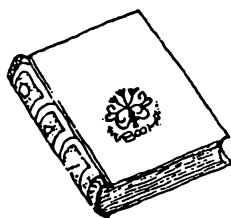
主 結論から言えば淘汰されるしかないだろうね。それも旧来の老舗から新規参入に至るまでを含んだ上でだよ。既にその徴候は出てゐるし、来年度から次第に顕在化して行くんじゃないかと思う。だから後一三年のうちに結論がでるんじゃないのかな。ただ俺としては一番恐いのはフロー・マネーがこの業界に流れ込んで来ることさ。委託商品であるから、在庫自体が一種の含み資

産として計上できるという特別な利点が金余りの人々に利用されたら本当に恐いと思うよ。まあ俺としても何としてもサバイバルして行くさ。

客 書店の方はともかく、以前から言っていた出版の方はどうなったんだい。

主 来年からフル・スロットルで動き出すさ。類書のない俺たちでしか出せない物で出版界に新しい風を思っているよ。

客 そっちの方は楽しみにしているよ。



〈書評再録〉

『人文科学の現在』——手引書で購読の誘い（朝日新聞、一九八八年十月二十四日）

人文会が発足して二十年の今年、かねて問題になっていた人文科学書の売れ行き不振に、各社で足並みをそろえて取り組もう、ということになった。

そのためには、どうしたらいいか。「人文会20周年記念委員会」をもうけて検討していくなかで、「人文科学書の売り方に、もっと工夫が必要」という結論に達した。

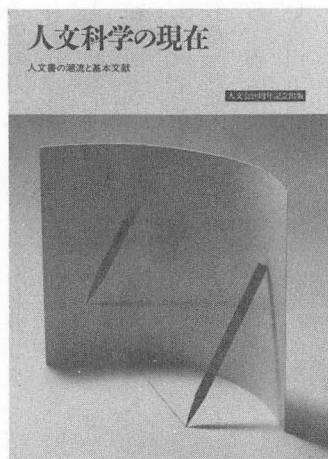
つまり、読者が本に出会う書店の棚に、読者の関心をひきつける人文科学書をいかにそろえておくか、という問題である。出版社側としてはこれまで、自社の本をいかにして書店に並べてもらうか、ということだけを考えがちだったが、自社の本ばかりでなく、もっと広い視野から、書店の人文科学書の棚を充実させていくべきだ、という点で各社の意見が一致したのだった。

ひとくちに「人文科学」といっても、幅が広い。現在、

学問大系は自然科学、社会科学、人文科学の三分野に分けられていて、図書の世界に限ってみれば、人文科学の分野には哲学、心理学、宗教、歴史、地理が入る。いまま全分野にわたって流通している図書は、約四十万点。このうち人文科学書が二万五千—三万点を占めている。

この中から、読者の役に立つ人文科学の基本図書を選びぬいて作成したのが『人文科学の現在』だ。内容は二部構成になっていて、第一部は人文科学の各分野で現在話題になっているテーマを、それぞれの専門家がまとめた二十本の小論文集。

たとえば「危機のなかの現代思想」のテーマで、宇波彰氏は「最近の傾向はあまりにも経済を重視して、思想の自立性を捨てているのではないだろうか」と問題を提起する。また、小林康夫氏は「〈ポスト・モダン〉の選



扱」と題して、「《ポスト・モダン》は時代に与えられた名ではなく、状況―ある意味では《近代（モダン）》という時代の終りなき終りの状況に与えられた名なのである」という、認識の出発点を説く。

このように、激動する現況をいきいきととらえた小論文が、ずらりと並ぶ。

「時間・空間」（村上陽一郎）、「プロトモダニズムの言語学」（竹内信夫）、「《トランスパーソナル》の現在」（吉福伸逸）、「女性・フェミニズム」（伊田久美子）、「女性・ジェンダー・n個の性」（芹沢俊介）、「生物学からライフ・サイエンスへ」（長野敬）……。

そして、それぞれの小論文のあとに、参考文献が数十点ずつあげられていて、読書の手引きを兼ねている。

第二部は、人文科学の基本図書を、哲学・思想、心理、宗教、歴史、社会、教育の六部門にわけ、さらに六部門を五十の項目に区分して、それぞれ五十点ずつ、合計二千五百点あげている。

つまり、このようにして精選された基本図書は、第一部と第二部合わせて三千五百点ということになる。

『人文科学の現在』の作成にあたった濱地正憲・人文会20周年記念委員会委員長（誠信書房営業部長）は「基本図書の基準は、こんご少なくとも三年から五年は売れ続けるだろうと思われる書籍であること、書店の人文科学書の棚の中で核になると思われる書籍であること、というところに重点を置きました。現在流通している人文科学書の一〇％強ですから、完全とはいえませんが、書店や読者の指針になると思います」と、期待している。

「弘報委員会より」

○「人文会ニュース」五三号をお届けいたします。本年は、既にご承知のとおり小会の創立二十周年にあたり、いくつかの記念行事を行いました。本誌においても、特別企画（第五十号）を組んだり、ご案内記事を掲載いたしました。

記念出版であります『人文科学の現在——人文書の潮流と基本文献』は、書店様の絶大なるお力添えを賜り、現在品切れになっております。なお、ご参考に「朝日新聞」に掲載されました書評を再録いたしました。

○今回の「人文書講座」は、本田和子氏に「子ども学」の流れと現状をご執筆いただきました。特に、文献リストは品揃えやブック・フェアの貴重な資料としてお役にたつことと存じます。

○本号にご執筆賜りました皆様方に厚く御礼申し上げます。

○小会では、二年に一度特約店・準特約店の改定を行っております。新しいリストを掲載しておりますので、ご覧下さい。

○次号五四号は、来年二月発行の予定です。好企画満載号ですので、お楽しみに。

人文会会員名簿

(〒113-91 東京都文京区本郷局私書函89号)

1988. 11. 現在

	社 名	担当者	〒	所 在 地	電 話	FAX
	青 木 書 店	古川 清	101	千代田区神田神保町 1-60	292-0481	292-0475
	大 月 書 店	原田 敦雄	113	文京区本郷 2-11-9	813-4651	813-4656
	御茶の水書房	橋本 盛作	102	千代田区九段北 1-8-2	230-2510	265-7767
	紀伊國屋書店出版部	佐久間健雄	156	世田谷区桜丘 5-38-1	439-0125	439-1094
	勁 草 書 房	氏家 富男	112	文京区後楽 2-23-15	814-6861	814-6854
	社 会 思 想 社	渡辺 和彦	113	文京区本郷 3-25-13		
				中銀本郷 3 丁目ビル	813-8105	813-9061
幹 事	春 秋 社	澤畑 吉和	101	千代田区外神田 2-18-6	255-9611	253-1384
	晶 文 社	萬洲 隆男	101	千代田区外神田 2-1-12	255-4501	255-4506
幹 事	誠 信 書 房	濱地 正憲	112	文京区大塚 3-20-6	946-5666	945-8880
幹 事	創 元 社	重光 義彦	162	新宿区山吹町 334-11	269-1051	269-1092
	筑 摩 書 房	菊池 明郎	101	千代田区神田小川町 2-8	291-7651	295-0220
会 長	東京大学出版会	中平千三郎	113	文京区本郷 7-3-1	812-2111	
				内7955		
幹 事	“	竹内 康一	“	“	811-8814	812-6958
幹 事	日 本 評 論 社	後藤 光行	170	豊島区南大塚 3-10-10	987-8621	987-8590
	福 村 出 版	土屋知可夫	112	文京区小石川 1-3-17	813-3981	818-2786
幹 事	平 凡 社	須田 康昭	102	千代田区三番町 5 K ビル	265-0455	263-9333
幹 事	法政大学出版局	市川 昭夫	102	千代田区富士見 2-17-1		
				法政大学構内	237-1731	237-8899
代表幹事	み す ず 書 房	相田 良雄	113	文京区本郷 5-32-21	814-0131	818-6435
	未 来 社	西谷 能英	112	文京区小石川 3-7-2	814-5521	814-8600
	雄 山 閣 出 版	武 一雄	162	新宿区白銀町 20	266-8481	266-8444
	有 斐 閣	辻村 清隆	101	千代田区神田神保町 2-17	265-6811	262-8035
	吉 川 弘 文 館	阿部 昇	113	文京区本郷 7-2-8	813-9151	812-3544

販売企画委員会 ◎竹内 ○氏家 西谷 辻村 阿部

弘 報 委 員 会 ◎澤畑 ○土屋 古川 橋本 萬洲

調査・研修委員会 ◎市川 ○武 原田 渡辺

20周年記念委員会 ◎濱地 佐久間 菊池

◎印は委員長 ○印は副委員長

「がん当たりくじ」 の話

国境なき放射能汚染

安斎育郎著 四六判上製カバー付1600円

チェルノブイリ原発事故は放射能汚染には国境がないことを示した。この課題にどう対処すべきか、人は皆原発当事者という現実を鋭くえぐる。

NHK「きょうの料理」 きのう・あす

食卓が変わる・女性が変わる・家族が変わる

飯田深雪・江原由美子・土井 勝・

長山節子著 四六判カバー付1200円

テレビ料理番組から世間が見える！
30周年を迎えた長寿番組を手がかり
に描きだしたユニークな同時代史。

東京・神田
神保町2



有斐閣

03-
265-6811

●ピーユン・イー著 五藤博義監修 こんにちにちわ亀さん コンピュータ・ロゴが示す教育のユートピア

定価2000円

わが国でも小・中学校の教育用コンピュータにロゴが採用されることになった。著者はもと、アメリカの名門ハワイ・プナホウ校の教師。コンピュータ・ロゴを学校に採り入れめざましい成果を上げた経験をふまえてパパーの説く人工知能の理想的教育環境を紹介。

未来社

東京都文京区小石川3-7
電話 03(814)5521

日本古代史研究に不滅の業績を遺した「坂本史学」の全容 坂本太郎著作集

全12巻刊行中／予約申込受付中

- 毎月一冊ずつ刊行中／A5判平均四七〇頁／明細内容見本を送呈
- ⑥ 古代改新……………共〇〇円 続刊
 - ⑤ 修史と史学……………続刊
 - ④ 風土記と万葉集……………共〇〇円 続刊
 - ③ 六国史……………共〇〇円 続刊
 - ② 古事記と日本書紀……………共〇〇円 続刊
 - ① 古代の日本……………続刊
 - ⑦ 律令制度……………続刊
 - ⑧ 古代の駅と道……………続刊
 - ⑨ 聖徳太子と菅原道真……………続刊
 - ⑩ 歴史教育と文化財……………続刊
 - ⑪ 歴史と人物……………続刊
 - ⑫ わが青春……………続刊

吉川弘文館

東京都文京区本郷7-2／電話03-813-9151

★新刊★

日本民俗学の展開

北見俊夫編

●A5・5800円

近年の学界状況をふまえ、新しい方途を模索しつつ、日本民俗学活性化のための提言をする。

縄文のムラと習俗

桐原 健著

考古学選書30 ●A5・3500円

縄文文化の集落、生業、住居そして習俗について、民俗学の成果を援用しつつ論述する。

雄山閣

千代田区富士見2／振替東京3-1685

御茶の水書房

原発いらん命がだいじ

小原良子編著 伊方原発の出力調整実験反対「百万人署名」の火つけ役となった元気な主婦・小原良子が、原発を止めたいと願うすべての人に贈る。

A5判並製・300ページ ¥1400

注文殺到中!

海を渡った愛の画家

——石垣栄太郎の生涯——

石垣綾子著 移民として渡来し、最底辺に生きる人々にゆるぎない愛と共感をよせて、強烈な社会的メッセージの作品を描きつづけた画家・石垣栄太郎。彼とともに歩んだ著者が描く感動的のクイエム!

A5判美装・260ページ ¥2400

東京・千代田・九段北1-8-2 ☎03(265)5746

歴史学研究会●編集

[歴研アカデミー]

オーラル・ヒストリー
と体験史 ●本多勝一の仕事をめぐって
南京事件体験者の聞き取りをすすめている本多記者と歴史研究者の白熱の討論! ¥16000
作家澤地久枝氏と現代史研究者たちが歴史と人間を描くことの意味を論じあう。 ¥16000
事実の検証と ●澤地久枝の仕事をもぐつて
オーラル・ヒストリー

青木書店

東京神田神保町1-60 03-292-0481

トーマス・マン日記

●第1回配本 1933—1934

浜川祥枝、他訳 マンの死後、十年、初めて公にされた膨大な量の日記の第一巻目 ▼八五〇〇円

●第2回配本 1935—1936

森川俊夫訳 亡命生活三、四年目に入った日常生活を克明につづる、貴重な文獻 ▼八〇〇〇円

魂の言葉としての夢

ユング心理学

H・ディークマン／野村美紀子訳 自分の無意識と出会う場である夢。その象徴体系・解釈法を詳説 ▼二五〇〇円

紀伊國屋書店

本店：東京都 新宿区 新宿3 ☎03(354)0131
出版部：東京都世田谷区桜丘5 ☎03(439)0125

大月書店

ベトナム戦争の記録

永久保存決定版

- 数百点の写真
- 正確な通史
- 豊富な解説と資料

厳選された数百点の写真と最新の研究成果による通史、貴重な証言、第一級の解説、豊富な資料。他に類をみないベトナム戦争の集大成版
A4判函入・12000円

20世紀後半を揺るがした世界史の回廊、ベトナム戦争のすべて!

東京都文京区本郷2-11-9・電話03(813)4651

煩悩の整理学

●中野東禅 百八あるという煩悩とは？ 煩悩に翻弄され流される我々のあり方を、より良き生に転換させる仏教の人間論。
1300円

東京都千代田区外神田2-18-6

春秋社

☎(03)255-9611 振替東京8-24861

一人二寺心の寺

●井上球二 「心の寺を建ててから私は蝸牛。どこへ行くにも寺といっしょで」水の流れる如く絶えることなき、信の真髓。1500円

本田和子 子別れのフォークロア

古代神話～映像まで母子の物語にみる結合と分離の姿。1700円+250

上野千鶴子対談集 接近遭遇

喋々囁々、縦横無尽、9人の男と乗り出す冒険の航海。1900円+300

松村 洋・三嶋典東

メディア遊走

1980年代後半…都市の情報風景の変貌を映すコラム85。1500円+250

鈴木みち子

プッツン・ママ物語

6つの家族狂騒曲 迷えるすべての母親と子供たちへ。1500円+250

谷川晃一

がらくた桃源境

がらくた・キッチュ・フォークアート 東西南北縦横無尽。1900円+250

東京文京 後楽2-23 勁草書房 振替東京 5-175253

アヴァンギャルドの理論

R・ボッジョーリ 篠田綾子訳 ロマン主義。サンボリスム。ダダイスム。未来派。……20世紀文化の基本構造を解明する、イタリアの碩学による古典的名著。待望の本邦初訳。3200円

写真術 21人の巨匠

P・ヒル／T・クーパー 日高・松本訳 マン・レイ、ブラッサイ、ラルティエグ、ユージン・スミス……彼らの傑作はどのように生みだされたのか。巨匠たちが語る「写真と私」。3600円

晶文社 東京都千代田区外神田2-1-12 電話 (255) 4501

隠れたる神 政治思想論集

ゴルドマン／山形頼洋他訳 シュミット／服部平治 他訳 四六・三八〇〇円

馬淵東一著作集

補巻 発売

A5判函入432頁 定価七八〇〇円

■全四冊完結／第一巻／第三巻／定価各八八〇〇円
A5判函入平均六〇八頁／全四冊揃価三四二〇〇円

日本の生んだ国際的人類学者の業績を集成

社会思想社

東京都文京区本郷3-25-13 ☎813-8105

柴田三千雄 歴史学選書(9) 四六判 一三〇〇円 パリのフランス革命 固有の構造と歴史的條件をもつパリと革命との出会い。革命初期、パリの民衆運動を社会政治史的に分析。 清水 透 四六判 一八〇〇円 エル・チチヨンの怒り メキシコにおける近代とアイデンティティ 近代化の波に抗して開いていくインディオ集落の姿を写す。 恒川恵市 四六判 一三〇〇円 従属の政治経済学 メキシコ 対外的経済依存が第三世界諸国に及ぼす影響についてメキシコを素材にミクロなレベルにまで掘り下げて説明。

東京大学出版会
〒113 東京都文京区本郷7-3-1 ☎03(811)8814

カラー図説 記憶力

そのしくみとはたらき

バッドリー／川幡政道訳 最近の認知心理学の研究成果をふまえて、目撃者証言や記憶術といった人間の様々な記憶について豊富な図版をもとに解説 3800円

ボディ・ランゲージ 解説法

アーチャー／工藤 カ・市村英次訳 ボディ・ランゲージに含まれる手掛りを解説し、他人の行動、感情の状態、関係性を推理。対人的感受性を高める書。1800円

誠信書房 東京都文京区大塚3-20-6
TEL.03-946-5666

塀の中の イラスト日記

府中刑務所のすべて
野中ひろし著 1950円

頭のとっぺんからシリの穴まで覗かれる24時間監視社会と強制労働——日本最大の監獄、府中刑務所にはもはや人間としての生活は残されていないのだろうか。監獄法改正——拘禁二法の現実がここにある。全頁イラスト。



日本評論社

豊島区南大塚3-10-10 ☎987-8611

こころの本 好評発売中!

まことの自分を生きる 井上洋治 1200円
賢治・良寛・イエス…その求道の魂を描く。

人の生き方について 森本哲郎 1200円
人生についての時空を超えたシンボリズム。

死を考える ●重版出来 中村真一郎 1300円
古今東西の古典を収め先人の死生観に学ぶ。

老いの生きかた ●重版出来 鶴見俊輔 1200円
老いの道すじを探る生きるヒントになる本。

東京神田 筑摩書房 小川町2

非
売
品

回覧者印	回覧者印	回覧者印	回覧者印